



横浜市福祉サービス第三者評価  
評価結果報告書  
横浜市野庭第二保育園

平成29年3月

評価実施機関

特定非営利活動法人

よこはま地域福祉研究センター

## 目 次

実施概要.....	1
評価結果についての講評.....	2
分類別評価結果.....	4
評価領域Ⅰ 利用者（子ども本人）の尊重.....	4
評価領域Ⅱ サービスの実施内容.....	8
評価領域Ⅲ 地域支援機能.....	12
評価領域Ⅳ 開かれた運営.....	13
評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上.....	14
評価領域Ⅵ 経営管理.....	16
利用者家族アンケート分析.....	17
利用者本人調査.....	21
事業者コメント.....	24

## ◆ 実施概要 ◆

事業所名	横浜市野庭第二保育園
報告書作成日	平成29年2月9日 (評価に要した期間5カ月間)
評価機関	特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

### \*評価方法

- 
1. 自己評価 【実施期間：平成28年9月1日～11月4日】
    - ・評価機関から説明を受けたあと、常勤・非常勤、すべての職員が自己評価に取り組んだ。
    - ・個々の自己評価を持ち寄り、グループに分かれて意見交換しながら、1項目ずつ確認し、工夫事例を出し合った。
    - ・グループでまとめたものを各グループのリーダー、主任、園長で協議し、合議の上まとめた。
  2. 利用者家族アンケート調査 【実施期間：平成28年11月1日～11月15日】

配 付：全園児の保護者（106家族）に対して、園から手渡しした。

回 収：保護者より評価機関に直接返送してもらった。
  3. 訪問実地調査 【実施日：平成29年1月11日、1月13日】
    - 第1日目
      - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
      - 午 後：書類調査／事業者面接調査（園長、主任）
    - 第2日目
      - 午 前：各クラスの保育観察～園児と一緒に昼食をとる。
      - 午 後：職員ヒアリング調査  
(主任・保育士3名・非常勤保育士1名・調理職員1名)  
事業者面接調査（園長、主任）
  4. 利用者本人調査 【実施日：平成29年1月11日、1月13日】
    - ・訪問実地調査の両日とも各クラスの午前中の保育時間を中心に、食事、排せつ、午睡の状況、登降園の様子等を観察。
    - ・乳児については主に観察調査、幼児については観察と食事の時間等に適宜聞き取り調査を実施。
-

## ◆ 評価結果についての講評 ◆

### 【施設の概要】

横浜市野庭第二保育園は市営地下鉄「上永谷駅」から徒歩で13分の野庭団地の一角にあります。団地の周囲にもマンションが立ち並び、高速道路を隔てて日野団地にもつながっています。保育園の隣には小学校があり、園庭から小学生がグラウンドで体操をしたり、遊んでいる様子が見えます。

野庭第二保育園は昭和53年（1978年）に横浜市立保育園として開園し、地域の公立保育園として多くの子どもたちを養育してきました。鉄筋コンクリート二階建て、築後40年を経過していますが、28年度、大規模改修をおこない、外壁が一新しました。園庭は広々として砂場や築山、芝生など変化にとんでおり、すべり台やベンチ、プールなどがあります。また、花壇や子どもたちが作物を育てる畑もあります。

定員は120名で、開園時間は平日が午前7時から午後7時、土曜日は午前7時30分から午後6時30分です。

園の保育理念は「乳幼児の健全な心身の発達」「乳幼児の最善の利益を考慮し、養護と教育を一体的に行う」「家庭や地域社会との連携・育児支援を行う」です。また園目標として「げんき やるき だいすき ～ぐんぐん のびのび のばニッコリ～」を掲げています。

港南区の育児支援センター園であり、地域の幼保小の交流・連携や園庭開放、絵本の地域貸出、育児講座や育児相談、保育所プチ体験、子育ての居場所への部屋の提供などを実施するほか、民間の保育所と連携する保育資源ネットワーク事業に積極的に取り組んでいます。

### 1. 高く評価できる点

#### ●活発な地域交流の環境づくりを進める中、さまざまな体験を通して子どもたちが元気に遊んでいます

園の保育課程には「地域の特性」と「地域とのかかわり」の欄を設けて地域の実態と周囲の環境について明らかにしています。そして積極的に地域住民と交流するように努めています。

地域での子育てを支援するため、交流保育、園庭開放を毎日実施しており、特に夏休みのプールには多くの子どもと保護者が来園して、園児と一緒に利用します。交流保育では毎月“にっこりでい”や“リズム遊び”“こどもの日の集い”“七夕”“水遊び、泥んこ遊び”“正月遊び”“節分”などを地域の親子と園児の交流を目指して実施しています。さらに毎月1回「プチ体験」を実施して園児と一緒に給食を体験したりしています。地域住民に向けての育児講座は「おもちゃ講座」「保育園探検隊」「歯磨き上手かな」「お話し会」など年6回開催しています。子育て居場所「あっぴっぷ」にサロン室を貸したり、絵本貸出しもおこなっています。正門の横には掲示板を設置して、園が実施している地域子育て支援の様々な事業を紹介して参加を呼び掛けています。近隣の保育園とは「年長児交流」を計画的に実施しています。子どもたちは、園内探検やリレー遊び、ゲーム、ドッチボール、交通安全教室などを体験し、年度末に“4歳児紹介”をして次年度につなげています。交流保育や園庭開放などを通じて、子どもたちは園内にとどまらない広い社会性を身につけていきます。

### **●手厚い人材育成の仕組みが子どもの自主性を育てる成果を生みだしています**

園の研修体系は横浜市こども青少年局や港南区こども家庭支援課が策定した研修のほか、港南区内の近隣の育児施設によるグループ研修などの手厚い外部研修の仕組みがあります。グループ研修は野庭周辺の施設間連携により進められており、職員は業務の時間内で参加できる仕組みです。また、近くにあるよこはま港南地域療育センターから、年2回巡回訪問が訪れ、課題のある子どもの療育・支援について助言を受けるとともに、職員や保護者も療育センターの研修に参加するなど、近隣の施設間の連携が進んでいます。研修には非常勤職員も正規職員と同じように参加できます。

本年度は在職5年未満の職員全員を港南区こども家庭支援課の障害児保育研修に派遣して、基礎的な知識や実習体験を積んでいます。こうした手厚く、充実した外部研修の体系があります。

園の研修計画は毎年、複数の研修担当者が合議して、非常勤を含む全職員を対象として策定します。

園内研修は、自分たちの業務を振り返り、「気づき」を改善につなげていくことを「ねらい」としています。本年度は「園目標」「子どもの人権」「ノロ対策」「歯磨き」「防災」を計画しましたが、それらに加え、「メンタルヘルス」「救命救急」「手作りおもちゃ」など、外部研修や仕事で得た内容を追加して実施しています。園では、健常児と障害児と低年齢児と一緒に手をつないで輪になって遊んだり、あるいはセミに興味を持った子どもがセミを折り紙で作り、みんなでセミやクワガタを作り、さらに保育室内に隠すチームと探すチームとに分かれ虫取り大会に発展させるなど、子どもの自由な発想を受け止め、育む柔軟な支援対応をしています。さらに、アプローチカリキュラムでは、遊びを通じて就学に向けた準備ができるよう、緻密な計画を策定し実現する保育士のチームワークが見られます。子どもの自主性を育てる人材育成計画がこのような実践の成果を生んでいます。

## **2. 独自に取り組んでいる点**

### **●食育に独自の工夫がみられ保育との連携も進んでいます**

園では年間食育計画を作成して子どもたちが食事や食材、調理、食文化とその過程に関心を持つよう、年齢に応じたクッキングを実施しています。調理職員は毎日子どもたちの食事の様子を見て、声掛けをするなどしています。特に新メニューのときは各保育室を回って喫食状況を見て確認しています。グリーンカーテンとして植えたキュウリやゴーヤ、子どもたちが種をまいて、収穫した野菜も給食に出しています。調理職員が保育室で魚をさばいて見せたり、「オープンキッチン」をおこなう等、子どもたちが食材に関心を持つよう工夫しています。

## **3. 工夫・改善が望まれる点**

### **●シフト制を軌道に乗せるとともに特性を生かす工夫が求められています**

今年度から職員配置についてシフト制が導入されました。その結果、さまざまな課題が発生していますが、ミーティングを少数でおこなうことでコミュニケーションが深まったとか、朝夕の送迎時に保護者と直接顔を合わせることができるようになったなど、サービスの質の向上の糸口になる結果も出てきています。制度変更をチャンスとしてとらえてさらに改善・工夫を進めていくことが期待されます。

# ◆ 分類別評価結果 ◆



3つ：高い水準にある / 2つ：一定の水準にある / 1つ：改善すべき点がある

## 評価領域 I 利用者（子ども本人）の尊重

<b>評価分類 I - 1</b> <b>保育方針の共通理解と保育課程等の作成</b>	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>園の保育理念には「乳幼児の健全な心身の発達、最善の利益と養護と教育を一体的に行うこと、そして家庭や地域社会との連携・育児支援を行うこと」が明記されています。また、保育方針では、「健康で安全で情緒が安定した生活環境、安心と信頼感を持ち自己肯定感を育てること、そして地域のネットワークを作り社会資源を活用した子育て」としており、いずれも利用者本人を尊重したものとなっています。</li> <li>園の理念、基本方針、目標はホームページやパンフレット、入園の案内「ようこそ野庭第二保育園へ」などで見ることができ、各クラス内に掲示してあります。</li> <li>職員の振り返りとして自己評価をおこなっており、その中に保育理念に関する項目を設けています。また、今年度の園内研修では園目標をテーマにして、全職員を対象に少人数に分けて、一人一人の意見を述べてもらい理解を深めました。</li> <li>保育課程では保育理念や保育方針、園目標や保育姿勢など保育に関する基本方針が明示され、地域の特性とともに「地域とのかかわり」の欄を設けて地域の実態と周囲の環境について明らかにしています。保育課程では「おおむね6か月未満」から「おおむね6歳」までの8段階に発達過程を分け「養護・教育」「食育」「保育士等の配慮」について記載しています。</li> <li>保護者に対しては、園目標や保育方針等は説明していますが、保育課程そのものの説明はおこなっていませんので、保育課程を保護者に配布や掲示するなど説明をおこなうことが期待されます。</li> <li>子どもの意見・意思を尊重した指導計画の見直しを柔軟におこなっています。例えば、夏の異年齢交流活動で子どもたちの意向でプールの時間の一部を蝉取りに変えたところ、蝉の折り紙づくりに広がり、園のイベントで蝉コーナーを展開するなどの発展が見られました。</li> </ul>	

<b>評価分類 I-2</b> <b>子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</b>	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3月初めに保護者へ向けて入園説明会をおこない、「ようこそ野庭第二保育園へ」や「保育園のしおり（重要事項説明書）」などを使って園の概要や理念・方針、園目標を伝えるほか、ルールや持ち物なども事前に説明しています。その際、ビデオを使って園の様子を紹介しており、目で見ることで園生活に見通しを持てるようにしています。</li> <li>• 入園時の保護者との面接は担当の職員が対応しており、乳児については調理職員も同席します。子どもの様子は「入園時間き取り表」などを使って観察したことを記載しています。面接時の記録は職員のミーティングで共有しています。</li> <li>• 入園時の短縮保育は乳児は3日間、幼児は2日間を基本に必ず実施しています。保護者にあらかじめ説明し同意を得ていますが、家庭環境や保護者の就労状況に配慮して期間を短縮するなど柔軟に対応しています。短縮保育期間の0～2歳児については、その間に保護者から子どもの様子などを聞き取り、保育日誌に記録して支援に生かしています。</li> <li>• 子どもの生活の連続性の視点から、0～2歳児は連絡帳を使って家庭と保育園での子どもの様子を伝えあい、共有するようにしています。3歳児以降はクラスノートを保育室に掲示して様子を報告しています。経過記録や保育日誌に記録してファイルにまとめて関係する職員が共有しています。</li> <li>• 年間指導計画は4期に分けて策定しており、各期ごとに、養護・教育、環境、食育等計画の各項目ごとの振り返りをきめ細かくおこない、その結果を記載しています。</li> <li>• 0～2歳児の「クラス指導計画・年間計画」では、ほかの年齢と同様に1年を4期に分けて策定していますが、個々の乳幼児の成長差を考慮した月次計画を策定しています。そのうえで毎月クラス会議を開いて成長に合わせ「個別指導計画」を改定・更新します。子どもの発達や状況を踏まえて毎月「今月のクラスのもくひょう」を立てて掲示するとともに、目標達成に向けて指導計画を改定しています。</li> <li>• 行事後に「行事アンケート」を実施し、保護者の意見を保育に生かしています。また事務室入り口付近に意見箱を置いて、保護者の要望や意見を聞けるようにしています。保護者の会は例年活発な活動がおこなわれており、園との共催などを通じて指導計画に意向が反映されています。さらに、個人面談や連絡帳のやりとりなどからの保護者の意見や要望を受けて指導計画に反映しています。</li> </ul>	

<b>評価分類 I-3 快適な施設環境の確保</b>	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 築40年と建物の老朽化が進んでいますが、今年度改修工事をおこなって、外観が一新されるとともに外壁のヒビ、穴などを修復し安全面で向上しました。清掃マニュアルやチェック表の一層の整備を進めており、屋内外とも清潔な状態が保たれています。</li> <li>• 園内の通風・換気等については外気を取り込んで確保されています。トイレは毎日清掃していますが異臭の除去についてはさらなる対策が望まれます。</li> <li>• 日当たりのよいクラスが多く、夏場などにはキュウリやゴーヤを育てたり遮光カーテンを置いて陽光をコントロールしています。</li> <li>• 沐浴・温水シャワー等の設備の管理や清掃については、手順書を作成して要所に掲示しています。「トイレ・水回りチェック表」を改定して、トイレやシャワー、沐浴設備などの共通したチェック表を作成し、管理の充実を進めています。屋外プールについても塩素管理のマニュアルを用意しており、管理日誌の作成をしています。</li> <li>• 保育室は、低年齢児のクラスでは、小集団保育がおこなわれるよう、衝立等を使用してコーナーづくりをしています。また、保育室内に子どもが落ち着いて過ごせる小空間があるなどの配慮がされています。</li> <li>• 0歳児から4歳児までのクラスは食べる・寝るの空間を分けています。5歳児クラスは清掃など管理をおこなって食事と睡眠を機能として使い分けています。</li> </ul>	

<b>評価分類 I-4</b> <b>一人一人の子どもに個別に対応する努力</b>	<b>評価結果</b>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3歳未満児については、個別指導計画を作成しており、3歳以上児についても課題のある場合には、個別指導計画を作成しています。個別支援計画の作成は保護者と面談をおこなって、子どもが受診している医療機関や専門機関などの情報を共有しながら要望や意見を聞いて計画に反映しています。</li> <li>• 個別指導計画は毎月クラス会議を開いて子どもの成長に合わせ、変更・見直しをおこない、保護者の意向や専門機関の助言を反映させています。</li> <li>• 保護者に児童票を記入してもらい、家庭での様子や健康状態、育児などに関する課題などを把握しています。入園後の子どもの成長発達については経過記録や保育日誌、配慮児記録等に記録しています。</li> <li>• 児童票や3歳児以降について記載する聞き取り表、児童健康台帳、配慮児記録などの各記録はそれぞれにファイルされており、事務室の鍵のかかるキャビネットに保管されています。全ての職員が手に取り確認することができます。</li> </ul>	

<b>評価分類 I-5</b> <b>保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</b>	<b>評価結果</b>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 特に配慮を要する子どもについて、積極的に受け入れています。</li> <li>• 配慮を要する子どもについては、ケース会議をおこなって、内容によっては保育士や専門職だけでなく保健師や行政の担当職員も含めて検討しています。個別指導計画は子どもの特性を経過記録や保護者の意向、保護者の希望などを踏まえた専門機関の意見などを踏まえて作成しており、保育会議で確認・決定しています。</li> <li>• 28年度は在職5年未満の職員を対象に港南区の障害児保育研修に派遣するなどして、基礎的な知識や実習体験をしています。さらに発達障害理解研修や食物アレルギー研修会、要支援家庭対応研修など最新の情報提供の仕組みがあり、担当する職員などには積極的に受講を支援しています。研修受講者が報告書を作成し、会議で報告したりして職員間で共有して保育に活かしています。また、よこはま港南地域療育センターから、年2回巡回訪問があり助言や情報を受けています。</li> <li>• 園の設備については玄関入口にスロープや手すりを配置し段差をなくしており、バリアフリーのトイレもあります。子どもが落ち着けるスペースや障害に対応した椅子などの備品を用意しています。保育士の支援の下、クラスの子どもと、障害のある子と同じクラスの子に加え異年齢の子も交えて一緒に遊んでいる様子も見られます。</li> <li>• 虐待への対応については「虐待防止ハンドブック」に従って対応しています。虐待が明白なときは保健師、ケースワーカーや民生委員、港南区福祉保健センターこども家庭支援課担当職員などと連絡を取り対応しています。虐待の疑わしい場合や見守りが必要な場合は、配慮児記録を作成して職員間で情報を共有し、関係機関とともにケース会議を開催するなどの対応もしています。</li> <li>• 「保育園のしおり（重要事項説明書）」の中で、食物アレルギーの対応について記載し、保護者に説明しています。食物アレルギーのある子どもについては、医師の生活管理指導表に基づいて、担当職員、調理職員、園長が毎月、保護者と面談をして、献立や除去食の確認をおこなっています。また、個人別のファイルを作成して職員がいつでも把握できるようになっています。除去食のない日であっても、専用のトレイと食器を使い、名札を立てて、間違いのないように習慣づけるなど、配慮をしています。</li> </ul>	

評価分類 I-6 苦情解決体制	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>園の苦情解決制度は横浜市が作成した「苦情解決要綱」と「苦情解決の手順」に基づいています。「苦情解決の手順」には苦情解決マニュアルも含まれています。</li> <li>保護者に対しては「園のしおり（重要事項説明書）」の「苦情解決制度について」の項目で説明し、苦情解決制度について玄関などにも掲示しています。苦情解決の第三者委員については「園のしおり（重要事項説明書）」に委員の名前と電話番号を記載し直接要望・苦情を申し立てることができることを説明しています。園では苦情受付箱と苦情受付用紙をおいて手書きによる受付もしています。苦情・要望は「苦情受付申出書、苦情受付通知書」を作成し、経過を記録して解決やその後の改善に役立てるとともに「苦情申し立てファイル」を作成しています。また、年2回、第三者委員との懇談をおこなって情報交換をしています。</li> <li>保護者の意向は、クラス懇談会での話し合いや行事の際にアンケートを実施して把握したり、保護者の会などを通じて意向を聞き取るなど多様な方法で受け付けています。</li> </ul>	

評価分類Ⅱ－１ 保育内容〔遊び〕	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• おもちゃや教材などは子どもの手の届く場所に置かれ、自分で取り出して遊べるようになっています。布製のボールや袋物、人形、ままごと道具、ブロックなどが箱やカゴに収納され、子どもたちが片付けやすいよう工夫しています。</li> <li>• 本棚の前にマットを敷いてコーナーを作ったり、マットや手作りの柵でおままごとなどのコーナーを作るなどそれぞれが落ち着いて遊べる環境を確保しています。</li> <li>• 保育士は、子どもの自由な発想を受け止め、それを集団活動に取り入れるよう柔軟な対応をしています。例えば、セミに興味を持った子どもがセミを折り紙で作り、みんなでセミやクワガタを作り、さらに保育室内に隠すチームと探すチームとに分かれ虫取りコーナー遊びに発展しています。</li> <li>• 保育士は、子どもたちがみんなで遊ぶ楽しさを知り、遊びを通してルールを守ることを年齢に応じてわかるように配慮して、鬼ごっこやドッチボールなどルールのある遊びを取り入れています。5歳児は高鬼ごっこの際、自分たちで考えた方法で鬼決めをして遊んでいます。</li> <li>• 年間食育計画があり、キュウリやナス、ゴーヤ、インゲン、さつまいも、人参、カブ、ブロッコリーなど野菜の世話をして育て、植物の生長や収穫の喜びを体験し、クッキングをする等の機会を作っています。また、稲を育て、収穫、脱穀するとおにぎりを作って持って行きたいと言う子どもの要望で、おにぎり散歩を計画しました。カブトムシやカイコを飼育して、図鑑で調べたり、カイコのまゆを卒園式のコサージュに作るなど保育活動にフィードバックしています。</li> <li>• 子どもの年齢や発達状況にあわせて自由に表現できるよう、制作や絵、歌、手遊び、リズム運動などをおこなっています。ピアノに合わせて体を動かすリズム運動は乳児クラス、幼児クラスと発達に応じてホールでおこなっています。</li> <li>• 子どもの自発的な表現を促すため、さまざまな素材として、廃材や新聞紙、色紙、クレヨン、マーカー、色鉛筆、粘土などのほか、散歩の際に持ち帰ったどんぐりや葉っぱなども用意しています。4、5歳児は個別にお道具箱を用意して、自由に使えるようになっています。子どもたちの作品は子どもや保護者の目に触れる場所に飾っています。</li> <li>• 子どもたちの異年齢の関わりは運動会やお楽しみ会、誕生会などの行事やリズム運動などで一緒に活動する機会を持つほか、散歩や園庭遊びなど日常的に異年齢の子ども同士で関わりを持っています。また、夏季期間は「夏の生活」として幼児クラスは異年齢の縦割り保育を実施しています。</li> <li>• 発達過程に応じて運動能力を高められよう、リズム運動をしたり、固定遊具や巧技台などを使って身体を動かして遊べる環境を作っています。園庭は安全に思いっきり身体を動かせるよう、クラス間で連携して時間帯を分けて使用することもあります。4、5歳児クラスは、体育協会指導員が年3回来園して訪問運動指導を受けています。保育士は事前に指導を受け、保育に取り入れています。</li> </ul>	

<b>評価分類Ⅱ－１ 保育内容 [生活]</b>	<b>評価結果</b>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが食事やその過程に関心を持つよう年間食育計画を作成して、年齢に応じたクッキングを実施しています。また、収穫した野菜を調理して給食に出したり、調理員が保育室でオープンキッチンを行うなど給食に関心を持つよう工夫しています。5歳児は当番活動としてその日の献立を発表し、配膳と片付けの手伝いをしています。</li> <li>・季節感を大切に旬の食材を使い、星形にくり抜いた卵焼きと人参をトッピングした七夕そうめん、ひな祭りのちらし寿司など、季節の行事にあわせた献立作りに配慮しています。</li> <li>・テラスや桜の木の下でおやつを食べたり、テーブルに花を飾るなど雰囲気づくりをしています。また、幼児はクラス内や異年齢での会食の際にランチョンマットを敷く等、楽しく食べる工夫をしています。</li> <li>・調理職員は毎日のミーティングで保育士から子どもの様子や喫食状況を聞いて、子どもの好き嫌いを把握しています。サイクルメニューを取り入れていて、1回目の意見や反省を次回に活かし、調理方法を工夫しています。</li> <li>・調理職員は毎日子どもたちの食事の様子を見る機会を作っています。特に新メニューのときは各保育室を回って喫食状況を確認しています。</li> <li>・横浜市公立保育園共通の「献立表」の裏に「給食室からこんにちは」を毎月作成し、給食日よりして事前に配布しています。「献立表」や「給食室からこんにちは」に毎月の旬の野菜を紹介し、食中毒予防のポイントやノロウイルス対策などの情報提供をしています。毎月3品の給食のレシピを写真付きで作成し、1階と2階の廊下にそれぞれ置いて、保護者が自由にとれるようにしています。</li> <li>・午睡時は子どもの顔が確認できるよう、カーテンで明るさを調節しています。保育士は子どもが安心して心地良い眠りにつけるよう、そばにいて体に触れるなど見守っています。乳幼児突然死症候群対策として、0歳児クラスは5分間隔、1、2歳児クラスは10分間隔で睡眠時の呼吸や顔色、状態をチェック表に記録しています。</li> <li>・一人一人の排泄のリズムを捉え、個人差を尊重しています。乳児クラスは一斉にトイレに誘うのではなく、一人一人の排泄の様子を見ながら声を掛けています。幼児は園外に出るときは促しますが、強要しないよう心掛けています。保育園での排泄状況を送迎時に口頭で伝えたり、連絡ノートに記入したりして保護者と常に連携を取っています。</li> </ul>	

<b>評価分類Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</b>	<b>評価結果</b>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康管理マニュアル」の中に『毎日の健康観察のポイント』の項目があり、保育中の観察事項、視診のポイント、発熱時・下痢などの対応等を掲載して、それに基づいて一人一人の健康状態を把握しています。職員は、園での子どもの健康状態について必要に応じて保護者に電話連絡したり、降園時に口頭で状況を伝えたりして、保護者と降園後の対応を話し合っています。</li> <li>・園での食後の歯磨き指導は、0歳児クラスから実施しています。巡回看護師が各クラスに入って、個別にブラッシング指導をおこなっています。</li> <li>・年2回の健康診断、年1回の歯科健診をおこない、その結果を健康診断は児童健康台帳に、歯科健診は歯科健康検査票に記録しています。健康診断・歯科健診の結果は「けんこうのきろく」・「歯科健診結果のお知らせ」に記入して保護者に伝えています。治療や検査が必要な場合は早目の受診を勧めています。</li> <li>・感染症マニュアルには「感染症の予防と対応」「乳幼児がかかりやすい主な感染症」「症状とその対応」などの項目があり、対応方法が明記されています。保育園のしおりに登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応が記載され保護者に周知しています。</li> </ul>	

<b>評価分類Ⅱ－2</b> <b>健康管理・衛生管理・安全管理</b> <b>【衛生管理】</b>	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生管理に関する「衛生管理マニュアル」があります。</li> <li>例年は年度末に担当職員がマニュアルの見直しをおこなっていますが、28年度は年度初めに全職員でマニュアルの読み合わせ、見直しをおこないました。マニュアルは各保育室に整備されており、職員は必要に応じていつでも見ることができます。マニュアルに基づき清掃等がおこなわれ、清潔で適切な状態が保たれています。</li> </ul>	

<b>評価分類Ⅱ－2</b> <b>健康管理・衛生管理・安全管理</b> <b>【安全管理】</b>	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>安全管理に関するマニュアルとして「安全管理マニュアル」「保育・教育施設班活動マニュアル」があり、「事故防止」「散歩時の安全」「ケガ」「不審者」「災害」などの対応について明示しています。マニュアルは各保育室に整備されています。職員は、屋内・屋外の安全点検表を毎日記録し、クラスごとの安全チェックリストを月1回実施して安全に配慮しています。毎月、火災や地震、不審者対策などについて避難訓練を実施しています。</li> <li>消防署員が来園して、職員は救急救命法（AED・心肺蘇生法）の研修を受けています。</li> <li>保護者の緊急連絡先や医療機関連絡先、港南区こども家庭支援課、港南消防署、野庭消防出張所、港南警察署などの連絡体制が確立されています。</li> <li>子どものケガについては、担任から園長、主任に報告し、口頭で直接保護者に状況を伝えています。ケガの状況は事故報告書に記録しています。</li> <li>警備会社のセキュリティシステムを導入しています。また、神奈川県警の発信メールや港南区こども家庭支援課、小学校などから不審者に関する情報を得られるネットワークが確立されています。</li> </ul>	

<b>評価分類Ⅱ－3 人権の尊重</b>	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士は一人一人の気持ちに寄り添い、言葉にできない思いを感じ取り、子どもの気持ちや考えを言葉や態度から汲み取るよう配慮しています。</li> <li>職員は、子どもに対して威圧的な言葉遣いや無視がおこなわれないよう、園内研修で具体例を示して子どもの人権や子どもの気持ちを学び、会議やミーティングで話し合っています。子ども的人格を辱めたり、自尊心を傷つけてはならないことを全職員が共通理解として認識しています。</li> <li>必要に応じて、ホールやサロン、フリースペースをなど一対一で静かに話し合える場所があります。</li> <li>守秘義務の意義や目的を職員やボランティア、実習生に周知しています。また、個人情報取り扱いについてマニュアルが整備されており、全職員に周知しています。保護者へは入園説明会等で説明し、写真の使用等については同意書で確認を取っています。</li> <li>遊びや行事の役割、持ち物、服装などで性別による区別をしていません。クラス内での順番やグループ分けなどは、男女の区別なく活動がおこなわれています。</li> </ul>	

<p>評価分類Ⅱ－４ 保護者との交流・連携</p>	<p>評価結果</p>
	<p></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 園長は入園説明会や年度初めにおこなわれる懇談会で各クラスを回り、保護者に保育の基本方針を説明する機会を設けています。また、毎月発行される「園だより」や各保育室に掲示される「今月のクラスのねらい」などで保育方針が理解されるよう、配慮し作成しています。</li> <li>• 子どもの送迎時に、その日の様子などを伝え、保護者と情報交換するよう配慮しています。利用者家族アンケートでは直接、話を聞きたいと言う声も複数あり、さらなる工夫が期待されます。</li> <li>• 年1回、個別面談の期間を設け、保護者が都合の良い日を選べるよう配慮しています。そのほか、保護者の要望に応じて、随時個別面談を実施しています。</li> <li>• 保護者から相談を受けた保育士が適切な対応ができるよう、園長や主任が助言しており、相談内容によっては園長や主任が同席して面談を実施しています。相談内容は保育経過記録に記録し、継続的なフォローができるようにしています。</li> <li>• 日常の保育の様子を写真に撮って保育室や廊下に掲示しています。また、行事の取組として子どもたちがアイデアを出し合い話し合う様子、決めて作っていく姿が伝わるよう写真やコメントを加えた大きな模造紙を掲示して保護者に伝える努力をしています。</li> <li>• 保護者懇談会は年2回、年度初めと終わりにクラス全体の様子を伝える懇談会を実施しています。懇談会に出席できなかった保護者には、懇談会資料を手渡して個別に様子を補足して伝えています。</li> <li>• 保護者の会があり、保護者が自主的な活動ができるようサロン室などを提供しています。保護者の活動に要請があれば、園長や主任、職員が参加しています。保護者の会主催の行事や、園との共催の行事等をおこなう際に相談を受けるなど常にコミュニケーションを図っています。</li> </ul>	

## 評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"><li>積極的に地域住民と交流するように努めています。園長は地域防災拠点会議や自治会祭りなどに参加して顔見知りの関係を築き、施設に対する要望を把握する機会を作っています。</li><li>地域の子育て支援ニーズに応じて、交流保育、園庭開放を実施しています。地域の親子と園児の交流を目的に、交流保育“にっこりでい”で、“リズム遊び”“こどもの日の集い”“七夕”“水遊び、泥んこ遊び”“正月遊び”“節分”などを実施するほか、毎月1回「プチ体験」を実施して、園児と交流し、給食を一緒に食べる機会を設けています。</li><li>地域住民に向けて、「おもちゃ講座」「保育園探検隊」「歯磨き上手かな」「お話し会」などをテーマに育児講座を年6回開催しています。</li></ul>	

評価分類Ⅲ－2 保育所の専門性を活かした相談機能	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"><li>育児相談は、地域住民や園庭開放、交流保育、プチ体験の利用者などを対象に毎日実施しており、相談はいつでも受け付けていることを門扉横に掲示して知らせています。</li><li>相談内容に応じて必要な情報は、「関連機関との連携マニュアル」に『関連機関一覧』のリストがあり、機関名、担当者、事業内容・相談内容が記載され、職員は情報を共有しています。関係機関・団体として港南区こども家庭支援課、よこはま港南地域療育センター、横浜市南部児童相談所、学校、近隣保育園、病院等と連絡を取り合い、日常的な連携ができています。</li></ul>	

## 評価領域Ⅳ 開かれた運営

<b>評価分類Ⅳ－1</b> <b>保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</b>	<b>評価結果</b>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちは、「公園愛護会」の人々と協力して行事をおこなったり、地域の敬老会と交流を図っています。</li> <li>中学校の職業体験の受け入れを実施しているほか、幼保小連携事業としてひまわりの種まき・水やり観察・種での制作、お店屋さんごっこ、下野庭小生活科の発表・給食体験など積極的に地域の学校等と交流を図っています。</li> <li>地域への施設開放として、子育て居場所「あっぷっぷ」にサロン室を提供しています。また絵本貸出しをおこなっています。</li> <li>近隣の保育園と「年長児交流」を計画的に実施しています。子どもたちは、園内探検やリレー遊び、ゲーム、ドッチボール、交通安全教室などを経験し、年度末に“4歳児紹介”をして次につなげています。</li> </ul>	

<b>評価分類Ⅳ－2 サービス内容等に関する情報提供</b>	<b>評価結果</b>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>パンフレットや保育園のしおり、ホームページ等に保育理念や方針、サービスの内容、職員体制など必要な情報を掲載し、情報を提供しています。見学の際にはパンフレットを用いて案内しています。</li> <li>利用者の問い合わせに対しては、園長や主任、フリー保育士が対応しています。</li> <li>見学日や時間は見学希望者の都合を優先し、希望に沿うよう配慮しておこなっています。園としては、子どもたちの遊んでいる普段の様子を見て欲しいことから平日の午前中を勧めています。</li> </ul>	

<b>評価分類Ⅳ－3 ボランティア・実習の受け入れ</b>	<b>評価結果</b>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア・実習生の受け入れのためのマニュアルがあります。ボランティア・実習生に対して保育園の方針、利用者への配慮等をオリエンテーションで十分説明しています。</li> <li>ボランティア・実習生の受け入れにあたり、あらかじめ職員には会議等で説明し、保護者には園だよりや掲示物で受け入れの考え方・方針が理解されるよう説明しています。</li> <li>保育実習、看護実習と実習目的に応じた効果的な実習がおこなわれるよう、学校側と相談してプログラムを提案しています。</li> <li>実習生は毎日クラス担当職員と振り返りをおこなうほか、最終日に実習の成果が活かせるよう、最終日前日にクラス担当職員、園長、主任と反省会・意見交換をおこなっています。</li> </ul>	

評価分類V-1 職員の人材育成	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市では保育士人材育成ビジョンを策定しており、職位と期待する役割・姿勢、必要とされる知識・技術、人材育成の取組(研修)が示されています。参加した研修等について、各自の研修手帳に記入して達成の水準が分かるようにしています。</li> <li>園の研修体系は横浜市のおこなう研修と港南区が策定した研修、区内の近隣の育児施設によるグループ研修などの手厚い外部研修の仕組みがあり、そのうえで園内研修があります。研修の受講は園のサービスの質的向上や自己研鑽にとどまらず、キャリア形成ともリンクしているため積極的におこなっています。</li> <li>園の研修計画は毎年、複数の研修担当者が合議して、非常勤を含む全職員を対象として策定します。研修の成果を評価して、毎年研修内容を見直しています。業務の中で必要となった研修は計画になかった場合でも参加するなど、柔軟に対応しています。研修に参加した職員は研修報告書を作成して回覧したり、会議の場を利用して説明するなど、研修の内容を職員間で共有できるようにしています。</li> <li>園内研修は日常業務の振り返りや職員間での話し合いを通して「気づき」につなげていくこととして「ねらい」を明確になるよう実施しています。28年度は「園目標」「子どもの人権」「ノロ対策」「歯磨き」「防災」をテーマに計画し、実施したほか、「メンタルヘルス」「救命救急」「手作りおもちゃ」などのテーマについてもおこないました。</li> <li>園では各クラスに1冊、業務マニュアルのファイルを備えており、全職員が確認できるようになっています。</li> <li>非常勤職員の指導については最終責任は主任ですが、直接の指導担当者は、正規職員もしくは3名のフリー職員(次席に相当)が担っています。主任とフリー職員はフリー会議を開いたり、休憩時間を調整して打ち合わせをおこなうなど、緊密なコミュニケーションをとって職員育成や連携の強化を進めています。</li> <li>人材の補充・確保については、アルバイトや非常勤職員の確保が難しい状況となっています。</li> </ul>	

評価分類V-2 職員の技術の向上	評価結果
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>保育士の自己評価のねらいは「自己評価の目的は保育者に求められる専門性の全体像が見え振り返りができる。迷いを見つめ自分の強み弱みを振り返る。職場全体で共有できる」となっています。</li> <li>自己評価表には保育理念、発達援助、保護者支援、保育を支える組織基盤の各項目について多くのチェック項目があります。また、「課題票」があり、年度の課題・省察・自己評価を書いて、園長がコメントを記入します。中間の振り返りと年度末の2回、園長と個人面談をおこなっています。</li> <li>職員が改善事例について主任または主任クラスの保育士に伝え、ミーティングなどで共有する仕組みがあります。今年度は、勤務体制がシフト制に変わったことに伴う改善事例などを業務表に反映させました。</li> <li>外部から保育の技術の評価・指導についてはよこはま港南地域療育センターの巡回訪問が年2回あり、専門家からのアドバイスを受けています。また、子どもの健康面については港南福祉保健センターと連携をしています。</li> <li>園としての自己評価では、保育方針と園目標、28年度の課題である(1)子どもが過ごす環境の見直し、(2)保育の質の向上、(3)園舎の老朽化対策の3側面についておこなっています。保育士等職員一人一人の自己評価結果や保護者アンケートの結果を踏まえて、次年度の課題・改善点を引き出しています。</li> </ul>	

<b>評価分類V-3 職員のモチベーションの維持</b>	<b>評価結果</b>
	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 職員に人事考課を実施しています。経験や能力に応じて1～3級および再任用、責任職などの職位に分かれています。職位のそれぞれについて役割と期待水準が明文化されています。</li> <li>• 人事考課では「目標共有シート」を作成しています。シートには業務目標、能力開発・能力活用目標等について記入し、現在の職務について適性・やりがい・難易度などを示します。担当業務に対する自己評価については、レーダーチャートにして園長や主任と共有しており、人材育成にも役立っています。</li> <li>• 子どもの状況や職員の能力向上に合わせて権限移譲をして、経験やスキルを高める仕組みがあります。例えばOJTのトレーナーが成長してきた職員に、クラスリーダーを任せて体験させ、振り返りをおこない、責任を明確にしつつ、保育への意欲を高めることなどが実施されています。</li> <li>• 園長は年2回、職員と面談をしています。また、シフト制に移行してからは、少人数での職員ミーティングをおこなうことで、職員間のコミュニケーションの質が向上してきています。</li> </ul>	

評価分類VI-1 経営における社会的責任	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市職員服務規程の定めに従って、法・規範・倫理等について周知しており、園内研修などで園目標や人権などについて話し合いをしています。また、運営状況についてはホームページを更新して公表しています</li> <li>「オフィス3R夢プラン」を策定して、環境教育や、ごみの減量化（EM菌によるたい肥づくり等）、ごみの分別などを進めています。今年度は新たに、カリキュラム会議の資料の印刷をやめて、パソコンを使ったペーパーレス会議をおこないました。また、保護者の会の「衣料品交換会」の開催を支援するなどしています。</li> </ul>	

評価分類VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年度、次年度計画の策定を前に園目標をテーマとして保育理念や基本方針について確認し、職員会議等で「思い」を伝え合う機会を設けています。また、保育理念や基本方針を保育士の自己評価項目に取り上げて、振り返りをおこない、年2回、園長と話し合いをする仕組みがあります。</li> <li>園の重要な意思決定については園長は保護者の会の港南区役員会に出席するなどして意見交換をおこなっています。また、懇談会や「園だより」を通じて経過を伝えています。今年度は大規模な施設の改修工事があり、目的や経過などを説明して保護者の意見を聞いています。職員には、意思決定の目的や経過についてもミーティングなどを通じて周知しています。</li> <li>中堅の職員は新人職員のトレーナーや後輩へのアドバイザーの役割が期待されるなど、職位により必要とされる知識・技術、職場での経験や受講が望まれる研修などが明確になっています。主任は積極的に研修の受講を勧めており、実践の中にその成果が見られます。</li> <li>主任は、シフト表の作成を通じて、子育てや介護など個々の職員の家庭環境を把握し、精神的・肉体的に良好な状態で仕事ができるように配慮しています。また、ベテランの主任クラスの職員とフリー会議を開いたり、きめ細かく「報・連・相」の時間を確保して、コミュニケーションを密に連携をとっています。</li> </ul>	

評価分類VI-3 効率的な運営	評価結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>港南区内や野庭周辺の施設との連携を進めており、合同園長会や全体責任職会議に参加して、共同で研修をおこなうなどの関係を築いています。また、港南区も地域の保育に対して各種の施策を立てて支援しており、港南区子育て連絡会、育児支援会議やネットワーク等、地域の会議を通じて情報を収集し分析しています。</li> <li>園長と主任は日常的に連絡を密にとり、主任と主任クラスの職員はフリー会議を開いたり、重要案件については随時打ち合わせなどをして情報を共有しています。</li> <li>重要な情報については月1回の職員会議や保育会議のほか、毎日の職員ミーティングなどを通じて職員に周知されています。</li> </ul>	

# ◆利用者家族アンケート分析◆

## 【実施概要】

- 実施期間：平成28年11月1日～11月15日
- 実施方法：利用者全員の家族に対し、保育園から直接手渡しで配付、評価機関に郵送で直接送付してもらった。
- 回収率：配付106件、回収47件、回収率44.3%

## 【結果の特徴】

### ●保育園の総合評価

「満足」が51%、「どちらかといえば満足」が42.6%でした。

### ●問1 保育園の基本理念や基本方針

「よく知っている」は14.9%、「まあ知っている」は59.6%でした。「よく知っている」「まあ知っている」と回答した人のうち「基本理念や基本方針について賛同できる」という問いには「賛同できる」が54.3%で、「まあ賛同できる」を合わせると100%となっています。

### ●問2 入園する時の状況について

全ての項目で「満足」の回答が50%台でした。「見学の受け入れについては」の問いには「その他」の回答が14.9%ありますが、上の子がすでに入園しており見学をしなかった人などが含まれています。

### ●問3 保育園に関する年間計画について

「年間の保育や行事についての説明」の「満足」の回答は34.0%で「保育や行事に保護者の要望が活かされているか」の設問では27.7%となっています。

### ●問4 日常の保育について

「遊び」については、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせると、全ての項目で90%をこえています。「生活」については、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせると、「おむつ外し」と「ケガの報告」を除いて、ほぼ90%です。「おむつ外し」は自由回答に「まだ始まっていない」「入園前に終えている」などの回答がありました。「ケガの報告」については、「どちらかという不満」「不満」を合わせると14.9%になります。

### ●問5 保育園の快適さや安全対策について

「施設設備について」で満足との回答は36.2%で、「どちらかという不満」「不満」の合計が19.1%、「感染症や注意事項の情報提供」については「どちらかという不満」「不満」の合計が17.0%でした。

### ●問6 園と保護者の連携・交流について

「園の行事の開催日や時間帯への配慮」や「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換」「開所時間内であれば柔軟に対応」の「満足」がやや低いものの、そのほかの項目は50%前後の「満足」の回答がありました。

### ●問7 職員の対応について

「満足」の回答がおおむね50%前後ですが、「話しやすい雰囲気、態度」については44.7%の「満足」であり、やや低い結果となっています。

### ●自由記述について

「心豊かに育ててくださっている」「いつも丁寧に対応していただき有難うございます」「個」として認めて保育して下さる」などの意見がありました。一方で、ハード面の不満や送迎時の対応や受け入れ体制、行事日程などへの不満や要望についての意見などもありました。

## 横浜市野庭第二保育園 利用者家族アンケート集計結果

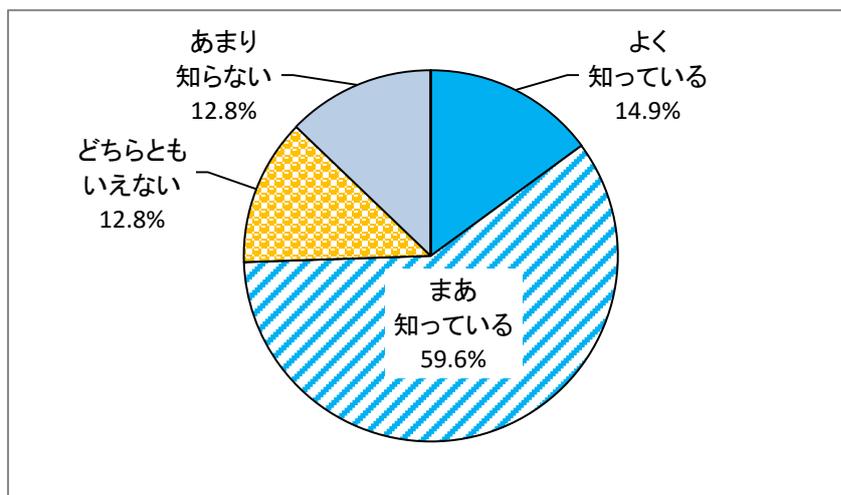
実 施 期 間	平成28年11月1日～11月15日
調 査 対 象	利用者家族
配 布 世 帯 数	106 件
有 効 回 答 数	47 件
回 収 率	44.3 %

お子さんのクラス	0歳児 クラス	1歳児 クラス	2歳児 クラス	3歳児 クラス	4歳児 クラス	5歳児 クラス	無回答	(人)
	2	12	8	7	8	10	0	

※2人以上在籍の場合、下のお子さんのクラスで回答

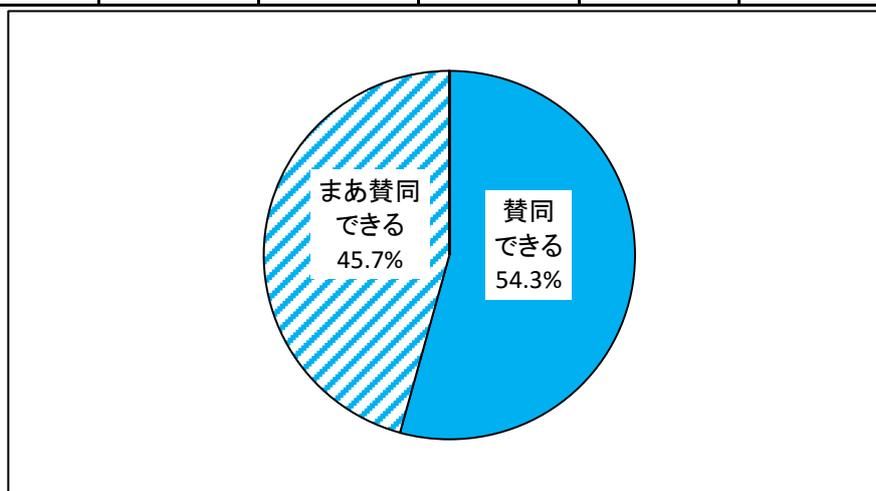
### 問1 保育園の基本理念や基本方針について

	よく 知っている	まあ 知っている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答	(%)
あなたは、この園の保育目標や保育方針をご存じですか	14.9	59.6	12.8	12.8	0.0	0.0	



### 1 よく知っている 2 まあ知っている とお答えの方へ

	賛同 できる	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同 できない	無回答	(%)
付問1 あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	54.3	45.7	0.0	0.0	0.0	0.0	



問2 入園する時の状況について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
見学の受け入れについては	53.2	27.6	4.3	0.0	14.9	0.0	
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	57.4	34.0	4.3	0.0	2.1	2.1	
園の目標や方針についての説明には	51.1	40.4	8.5	0.0	0.0	0.0	
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	53.2	36.2	6.4	0.0	4.3	0.0	
保育園での1日の過ごし方についての説明には	53.2	36.2	10.6	0.0	0.0	0.0	
費用やきまりに関する説明については	53.2	36.2	8.5	0.0	2.1	0.0	

問3 保育園に関する年間計画について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
年間の保育や行事についての説明には	34.0	57.4	8.5	0.0	0.0	0.0	
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	27.7	48.9	10.6	2.1	10.6	0.0	

問4 日常の保育内容について「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
クラスの活動や遊びについては	57.4	40.4	0.0	2.1	0.0	0.0	
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	63.8	27.7	8.5	0.0	0.0	0.0	
園のおもちゃや教材については	61.7	36.2	2.1	0.0	0.0	0.0	
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	59.6	36.2	4.3	0.0	0.0	0.0	
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	55.3	36.2	6.4	2.1	0.0	0.0	
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	51.1	42.6	6.4	0.0	0.0	0.0	

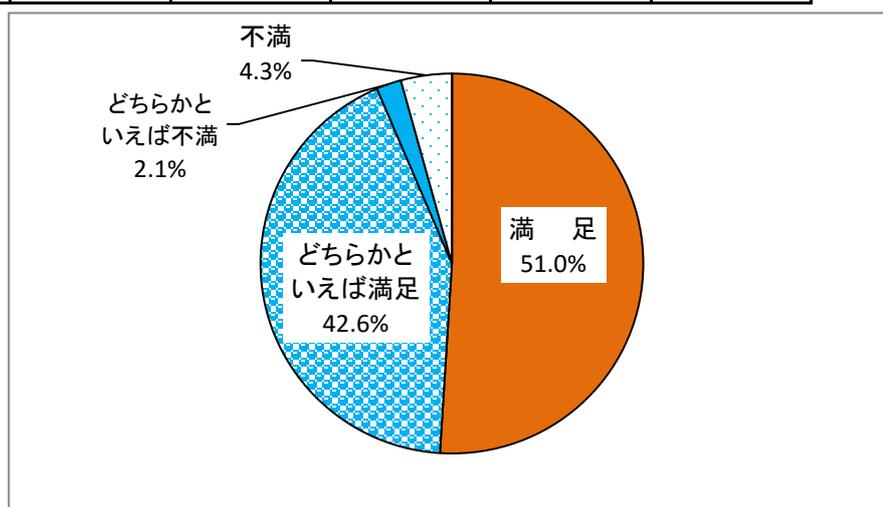
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
給食の献立内容については	57.4	34.0	8.5	0.0	0.0	0.0	
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	57.4	31.9	8.5	2.1	0.0	0.0	
基本的な生活習慣の自立に向けての取り組みについては	61.7	31.9	6.4	0.0	0.0	0.0	
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	61.7	27.7	10.6	0.0	0.0	0.0	
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	46.8	34.0	6.4	4.3	6.4	2.1	
お子さんの体調への気配りについては	55.3	38.3	6.4	0.0	0.0	0.0	
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	51.1	29.8	6.4	8.5	0.0	4.3	

問5 保育園の快適さや安全対策などについて	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
施設設備については	36.2	38.3	17.0	2.1	6.4	0.0	
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	53.2	38.3	8.5	0.0	0.0	0.0	
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	42.6	44.7	8.5	2.1	2.1	0.0	
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	51.1	31.9	10.6	6.4	0.0	0.0	

問6 園と保護者との連携・交流について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	53.2	38.3	8.5	0.0	0.0	0.0	
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	49.0	46.8	4.3	0.0	0.0	0.0	
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	34.0	48.9	12.8	2.1	2.1	0.0	
送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	42.6	42.6	6.4	6.4	2.1	0.0	
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	51.1	42.6	4.3	2.1	0.0	0.0	
保護者からの相談事への対応には	48.9	44.7	6.4	0.0	0.0	0.0	
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	44.7	40.4	10.6	2.1	0.0	2.1	

問7 職員の対応について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	(%)
あなたのお子さんが大切にされているかについては	51.1	42.6	6.4	0.0	0.0	0.0	
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	59.6	36.2	4.3	0.0	0.0	0.0	
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	48.9	38.2	2.1	4.2	4.2	2.1	
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	44.7	40.4	8.5	4.3	2.1	0.0	
意見や要望への対応については	46.8	44.7	4.3	4.3	0.0	0.0	

問8 保育園の総合的評価	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	(%)
総合満足度は	51.0	42.6	2.1	4.3	0.0	



## ◆利用者本人調査◆

### 【実施概要】

- 実施日時：平成29年1月11日、1月13日
- 実施方法：午前中の保育観察時間を中心に、各クラスの観察を実施、また幼児とは会話の中で適宜聞き取り調査を実施。

### ●0歳児クラス

車を片手に持って、手作りの柵の上を走らせ、夢中になって今度は広い畳の上などいろいろな所を走らせて遊んでいる子どもや、おもちゃの携帯電話のボタンを指先で押して耳にあてたり、赤ちゃん人形を背負いしっかりと歩いたり好きな遊びをしています。保育士の膝の上で絵本を読んでもらったり、保育士の歌にあわせて体を動かしながら手を振ったりし、テーブルの上に布を敷いて、保育士と一緒に紙の駒にクレヨンでぐりぐりと絵を描く子どもをまわりで見ている子どももいます。小さな家に入り込んで遊ぶ子どもに外から保育士が声を掛けるなど、子どもたちは、保育士に見守られて自由に遊んでいます。保育士は、見守りながら体調に気を配り、横で寝転ぶ子どもの額に手をあて、体温計で体温の確認をしています。自由遊びのあと、保育士は一人一人の子どもの様子を見ながらおむつを替えています。子どもたちは給食の準備の間に絵本を読んでもらい、保育士が「美味しい」と言うと、絵本の食べ物を指先でつまんで口に持っていきます。給食の準備が整い、子どもたちは椅子に座ります。上手に両手でコップを持って飲んでいます。右手でスプーンを持ち、左手で意欲的に手づかみに食べる子どももいます。保育士は、「モグモグ、ごっくん」と子どものペースを見ながら声を掛けています。「美味しいね」と言いながら介助用スプーンで援助しています。食欲旺盛に食べています。食べ終わった子どもは、手を合わせて「ごちそうさま」をします。

### ●1歳児クラス

子どもたちは、絵本『おべんとうバス』を読んでもらいます。内容を知っていて、保育士と言葉のやり取りを楽しんでいます。『おばけがそろそろ』を真剣に見つめて聞いています。「みんな、あんよはある？」の問いに「あんよあるよ」と答えています。保育士が今日の予定を話します。「今日はあり組さんが一緒に行こうと誘ってくれたの、お兄さん、お姉さんに手をつないでもらおうね。お手々つなぐの“やだ”って言うかな？」「やだっていわない」と子どもが答え、保育士に手伝ってもらいながら出かける準備をして待ちます。外に出て靴を履いていると2階から手を振り、声を掛けたりしてあり組が迎えに来ました。3歳児と手をつないで園の周りを散歩しました。途中転んだときは「泣かないで偉かったね」と褒められ、列も待っていてくれます。最後は「沢山歩いたからお腹が空いたね、給食が待ってるよ」と保育士に励まされて園に着きました。散歩から帰り、洗面所で手伝ってもらい手洗いをします。皆が揃うまで手遊び歌を保育士が歌うと、子どもも口ずさみながら手を握り、頬に指を指し、大きく腕を動かしています。友達を引っ張ると保育士が「それ、やあよ」と優しく言います。「今日の給食はチキンカレー何が入っているかな？」子どもたちは、それぞれ、「じゃがいも」、「ピーマン」、「人参」などと言います。子どもたちはスプーンを上手に使うてサラダやカレーを食べます。そこへ調理職員が様子を見に来ました。「先生見て」「ピーマン入ってた、食べた」「美味しい」など子どもたちの歓迎の音が聞こえます。

## ●2歳児クラス

保育士は、絵本を読んでいます。「ぬぬぬぬぬ」を読み始めると、子どもたちも「ぬぬぬ！」と一斉に言って盛り上がります。子どもたちは、手を洗って、それぞれの椅子に座っておやつを食べます。早く食べ終わった子どもは棚から絵本を出して読んでいます。保育士は子どもたちの口の周りを拭いて「ごちそうさま」を言います。何人かの子どもは保育士におむつを替えてもらいます。保育士と一緒にトイレに行く子どももいます。保育士がCDをかけると子どもたちは、音楽に合わせて手を動かして踊りだします。朝の会が始まり、これからの予定を聞いて、上着をきて帽子をかぶり散歩の準備が出来ると、保育室の外に出て靴を履きます。左右を間違えずに履いて褒められています。園庭に集合した子どもたちは、円陣を組み「えいえいおう」と掛け声をかけて出発です。園庭にいる他の保育士たちは笑顔で手を振って「いってらっしゃい」と言ってくれました。団地内の歩道を通って、おさかなトンネルに到着です。トンネル内を行ったり来たりと駆けっこをしましたが、10分位で終わりです。元気のない子どもも見受けられたので公園へ行く予定を変更して散歩を短縮しました。園に帰って、園庭の砂場で遊びます。スコップで砂を掘ったり、皿に砂を盛り付けたりしています。1歳児が風船を持って走り回っていると、いつの間にか2歳児も風船を持って走り回っています。保育士が沐浴室からたらいでお湯を運び、掃き出し窓に置いた洗面器や桶に移し、子どもたちは靴下や上着を脱いで、手や足を洗って入室します。給食の準備が始まりました。

## ●3歳児クラス

今日は1歳児と散歩です。保育士に「手をつないでって言える？お迎えに行ってください」と言われた子どもたちは、かに組と手をつないで散歩に出かけます。子どもたちはかに組の歩調に合わせるようにゆっくりと歩道を歩きます。街路樹の剪定をしている人に保育士が樹の名前を聞き「うぐいすカズラ、うぐいすが好きな木で赤い実がなる」と教えてもらいます。靴が脱げたり、転んだりすると列は止まって待ってくれます。時折子どもの「遠くから見えたお野菜の車だ」とか「あっ、消防隊員だ、カッコいい」などの話す声や“歌えバンバン”を歌う声が聞こえます。「電車が見えてきたね」と出かけた時の話しをする子どももいます。園に到着して1歳児クラスの保育士から「優しく歩いてくれてありがとう」の感謝の言葉を聞いて、そのまま園庭で遊びます。保育室に戻り、手洗いうがいを済ませ、絵本「おしくらまんじゅう」を読んでもらいます。段々話に引き込まれ、子どもも大きな声で保育士と一緒にお話しをなぞっています。給食の準備が終わって保育士が「それではみなさん」と言うと「いただきます」と子どもが大きな声で答えて食事が始まります。子どもたちは食欲旺盛で、「お代りする子が沢山いて、サラダもカレーも終わりました」と保育士が笑顔で子どもたちに報告しています。食べ終わった子どもは歯磨きを始めます。保育士は仕上げ磨きをしながら子どもの口腔をチェックし、虫歯治療のこと等も聞いています。

## ●4歳児クラス

園庭で自由遊びです。女の子数人がしゃがんで、きれいな小石を探しています。コンクリートの上では駒回し、駒の紐を巻くのを保育士に手伝ってもらい挑戦しています。「ここだ、とう、たぁ・・・」と足をあげ、手を広げて振り回しポーズをしながら戦いごっこをしています。砂の上にトレーやコップの底で平らにならして絵を描くなど子どもたちはそれぞれに遊んでいます。園庭から戻り、手洗いうがいをしてリズム運動の服に着替えます。服を全部いっぺんに脱ごうとしている子どもに、保育士は「上は上、下は下と別々に着替えましょう」と声掛けをしています。脱いだ服はきれいにたたみ、タオルはポケットから出してテーブルに置いています。「今日は、かぶとさんがしていた、雑巾がけをてんとうさんがします。」と告げられリズム遊びのホールに移動します。

給食の準備中、保育士は冬になると水が氷になるのはどうしてなのか、子どもに質問すると、いろいろな意見が子どもから飛び出しますが、それを否定することなく発言させてから、氷点下について説明をしました。「今度バケツに水を入れて寒い日に外に出すと朝カチコチに氷になっているかもね」と言うと「やってみる！」と興奮する子どもたち。子どもたちは、配膳された給食をテーブルごとに順番に、自分の分は自分で席に持って行きます。保育士は、今日の献立と食材を説明して「いただきます」をします。苦手な食べ物は予め減らしてもらいます。おしゃべりしながら賑やかに食事が進みます。食事が終わった子どもから歯磨きをして、パジャマに着替えます。

## ●5歳児クラス

朝の会が始まります。今日の当番3名を紹介して、一人ずつその子の良い所をみんなに聞いています。“走るのが速い”“やさしい”“サッカーが上手”など手をあげて発言すると次々と良い所が見つかります。当番の子どもが「みなさん、どうもありがとう」と言って次の子どもに交代します。保育士は卒園文集づくりの説明を始めます。今日は「自分のページ」の冒頭に自分の名前を書き入れます。保育士は小さな文字や大きな文字を書いて見せて、子どもに考えさせて丁度良いサイズがあることを気付かせています。また、いつもは下の名前だけけれど今日は上の名前も書くことを告げて、練習用の紙が配られると「緊張する！」と複数の子どもから声が出て、「トイレに行ってきます」と数人が席を立ちました。子どもたちは整列して道具箱を取り出します。早速、子どもたちは書き始めます。その様子を保育士が、保護者に「今日の様子」を知らせるために写真を撮っています。「先生できました」と手をあげると、保育士が一つ一つチェックをして、大きさを、文字の誤りを直してもらい、できた子どもたちは次々に保育士の元へ名前を持って行きます。給食を待つ間、紙芝居「狐のお約束とクレヨンおばけ」を食い入るように見つめ話を聞いています。各テーブルの当番は帽子とエプロンを身につけ、それぞれのグループに配膳します。当番が今日の献立と食材を説明して「いただきます」をします。

## ●リズム運動（幼児クラス）

4歳児クラス、5歳児クラスの子どもが椅子を持ってホールに集まり、異年齢のグループ毎に分かれて座ります。後からきた、3歳児クラスの子どもはすでに座っている同じグループの子どもが呼んだり、椅子を持ってくれたりとすぐグループに溶け込んでいます。卒園前に5歳児がしていたホールの雑巾がけを4歳児が引き継ぐことになり、4歳児は雑巾がけに初めて挑戦します。保育士は雑巾がけする際に、手や足がどうなっているか4歳児に聞き、実際に5歳児が雑巾がけをやって見せてくれました。再び保育士が「手はどんな形をしていた？」と聞くと、「パー」と答え、「足は？」の問いに「つま先」と答え、4歳児がやってみます。保育士は「雑巾がけをしてきれいになったのでリズムを始めます」と挨拶をして始まります。保育士のピアノにあわせて、数人で手をつなぎ輪になって、初めはゆっくり、次第にギャロップで早く回ります。「なべなべ、そこぬけ・・・」の音楽が始まると3、4人のグループが輪になって手をつないだまま、ぐるりと回転します。更に音楽が続いて、グループが2つ一緒になり、段々と小さな子どもも大きな子どもも一つの大きな輪になって、また順番にぐるりと回転をします。「歩めよ、仔馬・・・」の曲に変わると、子どもたちは、手をついてハイハイで進み、次に手をついて膝をつかずに足は親指で・・・などをグループごとやクラスごとに分かれ、リズムに合わせて身体全体を使って動かして楽しんでいます。小さな子どもが5歳児クラスの子どもの足首をもって引っ張ると頑張れの声援や拍手が起こります。最後は、全員で輪になって「雪」の歌を合唱して、5歳児の当番による「これでリズムをおわります」の挨拶がありました。

## ◆ 事業者コメント ◆

今年度は職員のシフト制の導入があり、体制が大きく変わりました。そんな中での第三者評価受審でしたが、職員皆で話し合いの時間を工夫して自己評価に取り組みました。話し合う中で自分たちの課題に気づき見直したり、園内研修やマニュアルの改定もすることができました。また、評価機関の皆様には私たちの保育を丁寧にみていただきました。評価できる点、課題点をきちんと伝えていただき、これから前進していくための大きな力となりました。ありがとうございました。

お忙しい中アンケートにご協力していただきました保護者の皆様にも心より感謝いたします。

これからも皆様のお声に耳を傾けながら「日々子どもたちの生活（あそび）を大切にする保育」をしていきたいと思ひます。

横浜市野庭第二保育園

---

## 福祉サービス第三者評価 評価機関

特定非営利活動法人 よこはま地域福祉研究センター

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目 17 番地 金井ビル 201 号室

TEL : 045-228-9117 FAX : 045-228-9118

URL : [www.yresearch-center.jp/](http://www.yresearch-center.jp/) Email : [top@yresearch-center.jp](mailto:top@yresearch-center.jp)



かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第 26 号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第 17 号

川崎市福祉サービス第三者評価認証機関 第 14 号

横浜市指定管理者第三者評価機関 認定番号 25-01

東京都福祉サービス第三者評価認証評価機関 認証番号 機構15-232

全国社会福祉協議会社会的養護関係施設第三者評価機関 2510-002-02

---